

年頭所感（「週刊ケイザイ防長」）

日本銀行下関支店長 竜田 博之

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

去年は、米中貿易摩擦の拡大・長期化や、IT 関連材のグローバル調整などから、世界の成長率や貿易量は鈍化し、この影響がわが国の製造業や輸出関連の業種にも及びました。もともと、設備投資を中心とする国内需要の底堅さが支える形で、日本経済は、基調としては緩やかに拡大しました。

山口県の景気も、海外経済の影響や輸送機械におけるグローバル販売の不振の影響を受けながらも化学を中心に生産が堅調に推移したほか、設備投資が増加しました。また、個人消費も消費税率引き上げや台風等の自然災害、天候不順の影響を受けつつ、雇用・所得環境の改善が続くもとで緩やかに持ち直す等、基調としては回復の状況が続けました。

本年も、当面は、世界経済の持ち直しの遅れや消費税率引き上げの影響等には注意する必要がありますが、IMF の見通しにあるように、世界経済は、本年中には過去平均並みにまで回復すると見られることから、わが国経済も拡大基調を続けると考えています。当県の景気にも、こうした国内外の明るい動きの影響が反映されていくことが期待されます。特に夏場には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、更なるインバウンド需要の拡大が見込まれる中、当県でも温泉街や港湾地区、駅の再開発事業等、「交流人口」拡大にも繋がる体制整備が着々と進められる予定です。また、県では昨年から開始した「やまぐち維新プラン」の第 2 期総合戦略推進として人口減少等の対応策にもつながる「関係人口」の創出・拡大に向けた取り組みへの支援策を国に要望しています。

本年の干支（庚子）は、新たな環境に向けて体制を整えていくと良い年のようなようです。「交流人口」や「関係人口」拡大に繋がるような新たな体制整備を進めつつ、皆様にとって本年が実り多い 1 年になることを心より祈念いたします。